

地域別勉強会助成制度実施報告

# ミニ小祝塾がスタート!

② WESTブロック、東北ブロック編

## Report

### 紀の芽の会

(7月7日)

王隠堂農園の桃の生産者数名も参加され、桃の園地で小祝先生の勉強会をしました。小祝先生は例年より10日位早い収穫前の白鳳を見て、すぐにその実を糖度検査してくださり、結果は良好。これから収穫時にはまだまだ良くなるだろうと言ってくださいました。桃作りをしてきてこんなに嬉しいことは初めてです。一昨年より従来の栽培方法を止め、小祝先生の指導のもと土壌検査により土壌改良材を含めたオーガニック8-5-3をベースにした施肥・栽培方法が良かったと思われまます。

次に出る品種の清水白桃、川中島白桃も見ていただき、樹の方も大分落ち着いてきて徒長枝の状態もこれ位で良いだろう、と安心するコメントをいただきました。

来年はこれまでより一割多く着袋を増やしても良いとのこと。その実を今収穫していますが、自然落果も少なく、玉揃いも良く、核割れも少ないようです。ますます桃作りに意欲が湧いてきました。(報告：田中康さん)

### リバーサイドうつくし村

(7月8日)

作物が生長しにくい、できにくくなった、充実した葉菜ができないと、6～15年経った有機農業に閉塞感を持っていた矢先の小祝塾in四国(4月)への参加は、グループの誰もが目からうろこが落ちた画期的な出来事でした。植物と養分をつなぐ役割を担う苦土が有機農家の約9割で欠乏していると話す小祝さんに、有機質とボカシ肥のみで苦土を全く施肥していなかった自分たちを思い知りました。もっと知りたいと皆の気運が高まり

開催に至った今回の勉強会には、鴨島自然農法7名、サンサンクラブの荒木さん、リバーサイドうつくし村7名、脇町普及センター2名、総勢17名が参加。作物を見て触れての現地研修が主となりました。

経験を積んだ久米さんでも苦土欠。もう少し苦土をきかせるとトマトの陽焼け果もぐっと少なくなると指導を受け「来年に希望をつなぐ」と久米さん。吉野川中流の沖積地帯という肥沃な土地にしっかり苦土をきかすとどんな成果が上がるか今から楽しみです。リバーサイドの藤川さんのキウイは、4月の小祝塾後に小祝さんの指導を受け果敢に取り組んだ結果、葉色も照りがあり見違えるほど。やっぱり苦土はすごいと皆感じたに違いありません。きゅうりでの効果はキウイ程ではないがまずまずの出来。大阪センターでのきゅうり返品率第1位という昨年の不名誉が今年は解消されたなど嬉しくなりました。「こんなに早く取り組んだグループは少ない、思っても見ませんでした」と小祝さんに励まされ、藤川さんはニコニコ顔でした。

また、4月の小祝塾後に土壌分析をして頂いたのですが、「お恥ずかしいことに分析表の解説ができないのですが…」と申し出ると他の人も同じだったようで夜は施肥設計の勉強会に。暑い中話し続けだった小祝さんに申し訳なく思いつつ、今を逃してはとパソコンでの施肥設計も夜遅くまでご指導いただきました。肥料についての説明も受け本当に充実した勉強会でした。これからしっかり活用していきます。身近で小祝塾が実施されたことに感謝し、次回小祝塾が益々楽しみです。

(報告：祖父江利江さん)

前回15号でお知らせした地域別勉強会助成制度に則ったJBFの小祝政明氏による勉強会が、7月の「すいか」「りんご」の作物別技術交流集いに併せ、WEST・東北の両ブロックで開催されました。以前にも小祝氏の話の聞いている団体ばかりで、今回はその成果が着々と見えてきた報告となっています。各団体からのレポートです。

### 新農業研究会

(7月24・25日)

今年で3年目になる小祝先生による技術指導。24日はじゃがいもと人参の生産者、長谷川さん・長尾さん他の圃場に出向き現地での指導・助言をして頂きました。今迄はりんごを重点に小祝塾を行なってきましたが、昨年からは米部門も始めました。野菜の方も始め、既に今年は4回目、いつもながら分かりやすい適切なアドバイスを生産者も真剣に聞き入っておりました。

翌25日はライスセンターにおいて、当研究会の若手後継者で構成する「土壌研究会」による“土壌分析”及びパソコンを利用した“施肥設計”を行ないました。一昨年Dr.ソイル5セットを導入して分析作業を行なってきましたが、昨年若手を育成し研修や講習会を頻繁に行ない、施肥設計の勉強もしてきました。もちろん小祝先生の助言、添削を仰ぎ、修正しながらです。

今回は先生を驚かせる出来事がおこりました。それは先生がいない間に行なった施肥設計が先生のそれと寸分たがわず同じ数値だったということです。着実に力をつけている若手の成長ぶりに先生も目を細めていました。

翌26～27日にらでいっしょぼーやの作物別技術交流集いりんご編が当地で行なわれ、会員の技術と意識の向上につながりました。こここのころの若手の成長は当研究会の活力であり、将来の飛躍を予感させます。

(報告：今井正一さん)